

## 平成 30 年度、令和元年度 桃山台留守家庭児童育成室の検証結果について

令和 2 年 12 月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立桃山台留守家庭児童育成室「ももぐみ学級」（以下「桃山台育成室」という。）については、平成 30 年 4 月から社会福祉法人耀き福祉会に業務委託し、委託期間については、平成 30 年 4 月から令和 3 年 3 月までの 3 年間としている。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査、命令等の規定に基づき、運營業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」という。）の運営状況に関して、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

### ～検証方法～

- 1 放課後子ども育成課職員 [担当事務職員、スーパーバイザー（S V ※元公立保育園保育士）] による現地視察（週 1 回程度）
- 2 保護者へのアンケート（委託初年度：年間 3 回、2 年目以降：年間 1 ～ 2 回）
- 3 事業者への聴き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

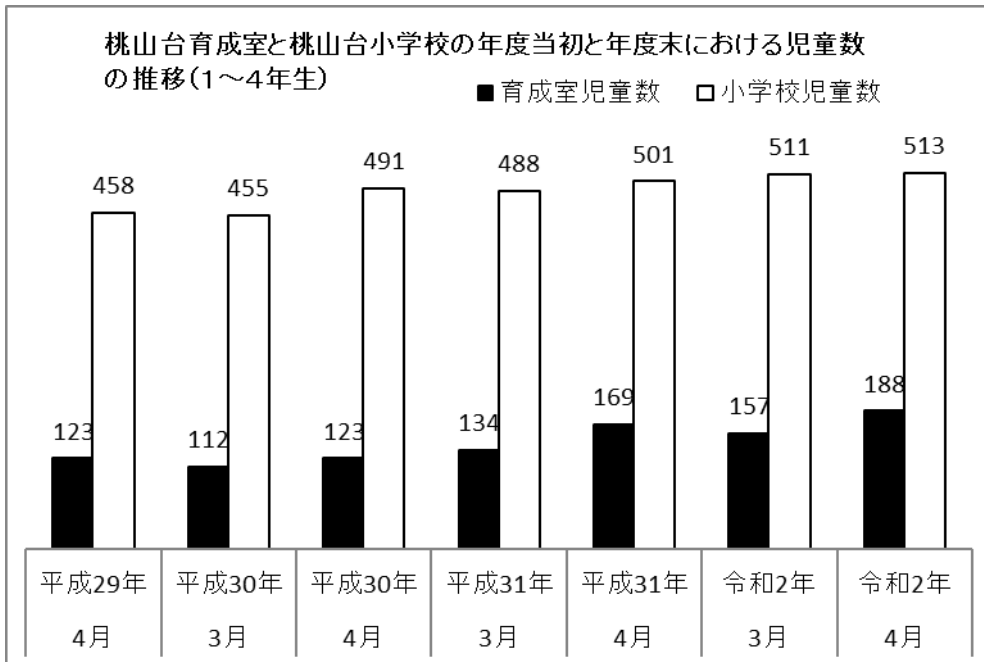
### 1 入室児童数等について

桃山台育成室については、平成 31 年 4 月時点で 169 人在室（学年内訳、1 年：49 人、2 年：40 人、3 年：50 人、4 年：30 人）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が 4 人在籍している。4 教室で運営しており、1 教室あたりの児童数は 42 人となっている。児童数の規模としては、36 育成室中 32 番目であり、本市の育成室の中では大規模である。

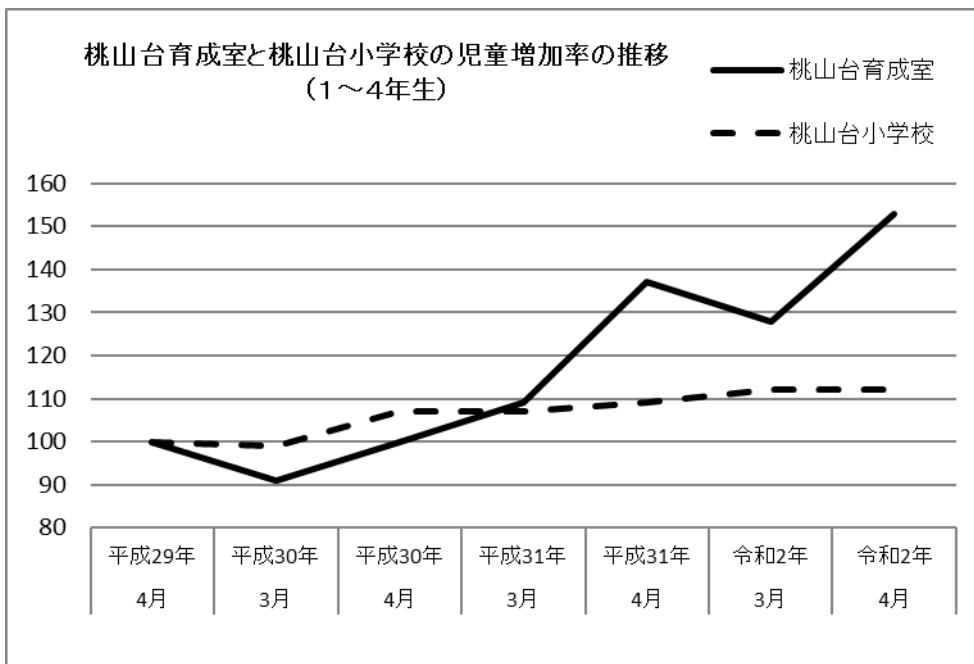
今後の入室児童数は増加傾向にある見込みで、令和元年度は前年度比 37% の増加、令和 2 年度は前年度比 11% 増加している。また、小学校の児童増加率と比べ、入室児童の増加率が大きく、就労支援を必要とする家庭の割合が増えている地域であることが見てとれる。令和 2 年度から 5 教室で運営しており、今後もさらなる児童数の増加が見込まれる。

【表 1・2】

【表 1】

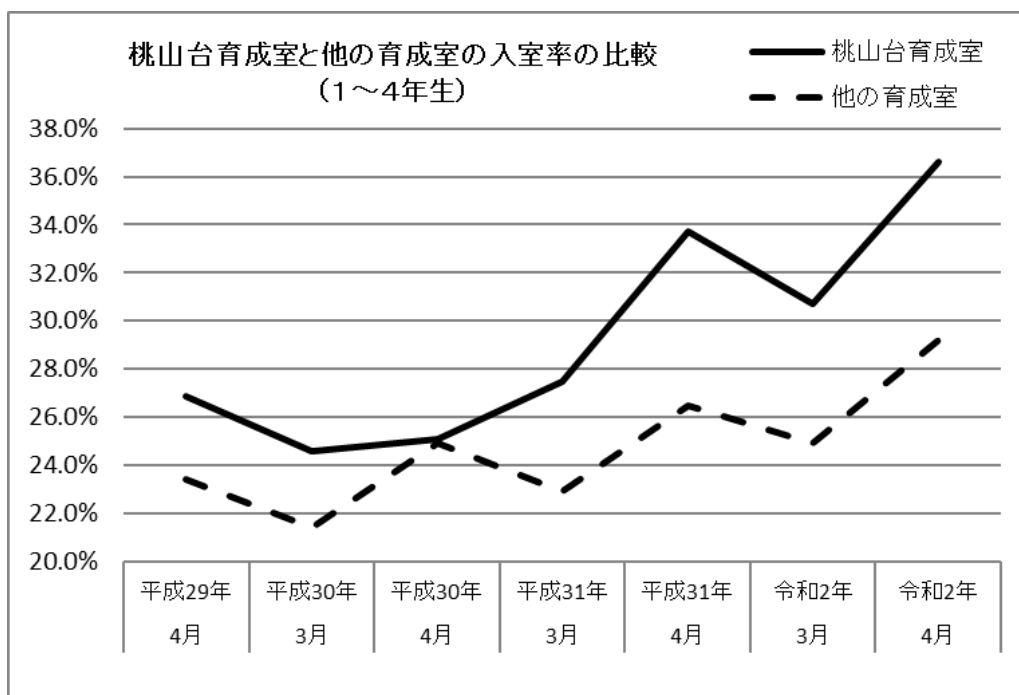


【表 2】



桃山台育成室の平成 29 年度から令和元年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表 3】のとおりとなっている。桃山台育成室の入室率は、他の育成室の入室率より高い水準で、令和元年度 4 月当初の入室率は約 34%とかなり高く、他の育成室と比べ極めて高い入室率となっている。

【表 3】



## 2 保育内容について

### (1) 日常における保育の取組について

桃山台育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては、以下を挙げることができる。

#### ア 児童の登室、休室状況等の把握をしっかりと行っている

児童が登室したときに、育成室入口前にあるホワイトボードに自分のマグネットを下校コースのボードに貼り、連絡帳をそのコースのかごに入れるルールを徹底しており、出席状況と下校時間及びコースを児童自身に認識させるとともに、全指導員が把握できるようにしている。

#### イ 学級だより等で児童の様子を保護者へ伝えている

学級だよりを月に1～2回発行しており、学級の取組や今後の予定に加え、カラーで写真を入れて学級の雰囲気伝える工夫をしている。また、学級懇談会でもスライド写真や映像を保護者に見てもらったり、児童間で流行っているゲームと一緒に体験してもらったりなど、児童の普段の様子や遊びを伝える工夫をしており、保護者への情報発信はしっかりと行っている。

#### ウ 終わりの会等を通じた児童の集団作りを行っている

育成室での終わりの会の時間などでは、下校コース別に部屋を分けたうえで、異年齢の小集団を構成し、一日の振り返りを行っている。夏の行事「ももいでまつり」では、4年生会議で出し物を話し合ったり、担当を決めるなど集団の中での

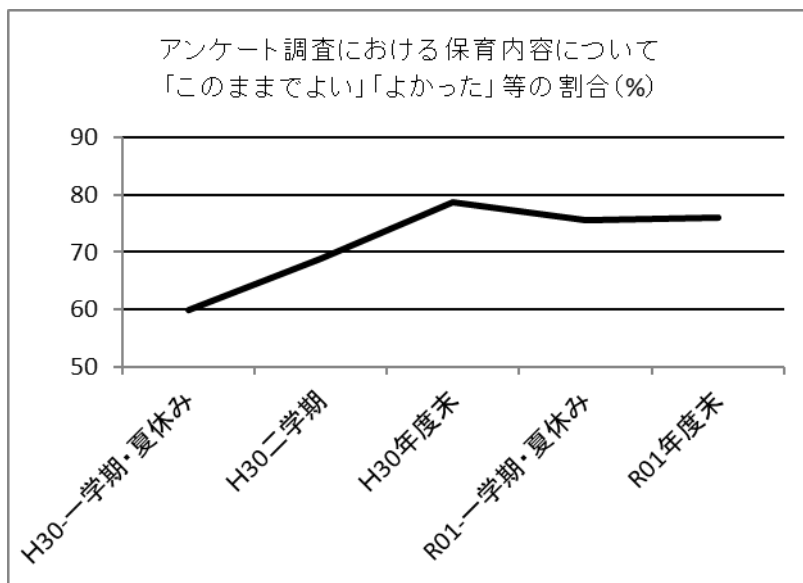
個々の役割や位置づけを明確にすることで、児童の特性を生かした集団作りを行っている。

## (2) 保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、これまで行った5回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」と回答をしており、平成30年度一学期・夏休みのアンケートから1年間にかけて約19%上昇しており、令和元年度は1年を通して保護者からの評価が高いことが読み取れる。

平成30年度一学期・夏休みのアンケートにおいて「子供たちみんなで行う取り組みをもっと増やすべきである。(11.0%[13人])」が、令和元年度末では6.9%[6人]に減少してはいるものの、一定の保護者のニーズとして児童の自主性や選択を重視するだけでなく、異年齢の集団づくりを通して取り組む機会を求められているものと推察できる。【表4】。

【表4】



## (3) イベントについて

桃山台育成室の特色として、元プロサッカー選手とのスポーツ体験やフラワーアレンジメントの講師による壁飾りづくりなど、プロフェッショナル（職人）に触れるイベントを取り入れるようにしており、児童が本物と接する機会を大事にしている。また、毎月行事やけん玉認定を行っており、参加不参加は児童の自由に行っているが、遊びや児童の活動の幅が広がるように、児童が普段しない遊びに親しむ機会を設定するなど工夫をしている。ハロウィンパーティーでは、事前に衣装づくりに参加した児童は自作の衣装で、参加しなかった児童も指導員が用意した仮想グッズを身に纏い、共に楽しむことができていた。

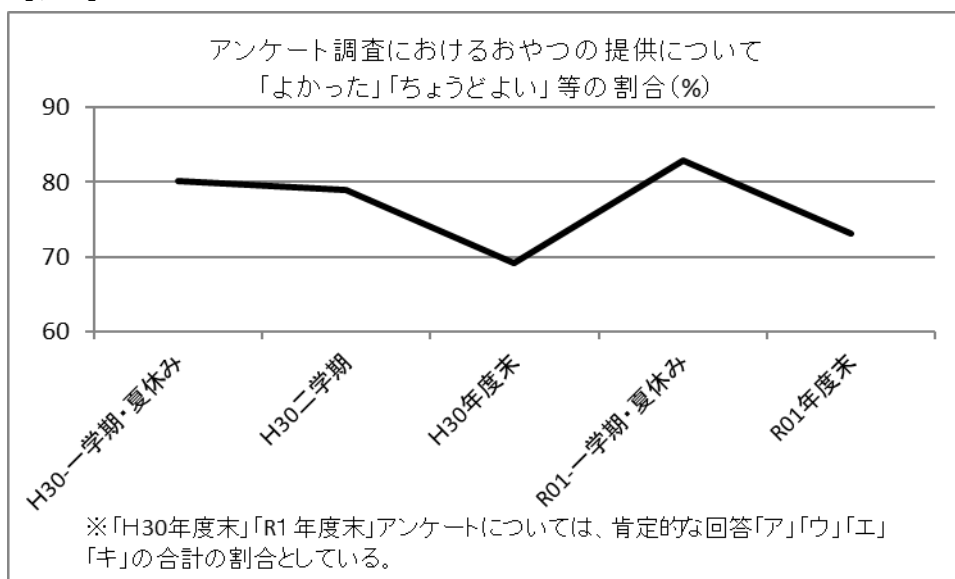
#### (4) おやつ提供について

桃山台育成室においては、児童自らが生活を組み立てる練習の意味も含め、自身の体調や空腹状況を判断し、おやつを食べるタイミングを児童に選択させており、名前シールを貼ったお皿でおやつ提供の有無を把握している。食べない日が続くときには保護者に報告し、児童の体調管理や傾向を相談している。おやつはなるべく季節の新鮮なものを選び、感染症の流行時期には個包装のものを選んで提供している。なお、児童全員が同じおやつを食べられるようにアレルギー除去のおやつを選んでおり、どうしても難しい場合は、同系のおやつを代替として用意するなどメニューを工夫している。

#### (5) おやつ提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等の肯定的な意見が、平成30年度から令和元年度にかけて70～80%程度と高い評価を得ている。一方で、令和元年度末の回答結果の自由記述欄では「自主性を尊重して子供に食べる食べないを選ばせるのではなく全員にたべさせてほしい」といった回答もあるので、栄養価や腹持ち等の補食の観点を踏まえて、より良い運用方法を継続して検討していただきたい。

【表5】



### 3 指導員について

#### (1) 指導員の配置について

桃山台育成室の指導員の配置については、4部屋での運営であるため、部屋に配置する指導員が8名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が4名必要であるため、1日当たり12名の指導員の配置が必要。1部屋に常時2名の指導員を配置しており、配慮を要する児童に付き添う指導員もきちんと配置できていた。保有資格として

は、保育士または教諭の免許及び放課後児童支援員の資格を10人程度は保有しており、資格を有している指導員が多い。

指導員体制について、一日保育のときは、児童の人数や活動に応じて指導員の配置を変えて対応している。また、指導員が休憩を取りやすいように出勤時間に合わせて休憩のタイミングを決めるなど、働きやすい環境づくりを心掛けている。

## (2) 指導員の児童との関わりについて

遊びでは、遊びに入る指導員と見守る指導員とで分担をしており、遊びに入る指導員は遊びの提案や参加できない児童に声を掛け、遊びの橋渡しをしている姿が見られ、児童とのコミュニケーションも積極的に図っている。また、各部屋で遊べる内容を決めているため、部屋を行き来する児童や、静かに読書や宿題をする部屋の児童、体を動かして遊べる部屋の児童を、全体を見守り声掛けする指導員と、各部屋で児童と楽しそうに遊んでいる指導員がおり、日によって声掛けする指導員を変えて全ての指導員が児童と関係が築けるような工夫もしている。桃山台育成室では、部屋ごとに静かな雰囲気、賑やかな雰囲気と異なっているが、児童がその日に過ごしたい部屋で生活出来ることから、児童全員が笑顔で、全体では楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

## (3) 指導員に関する保護者からの意見について

令和元年度年間を通じてのアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表6】

回答が多かった順に上位3つを挙げると以下のとおりとなっている。

1位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」16.3%[46人]

2位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」16.0%[45人]

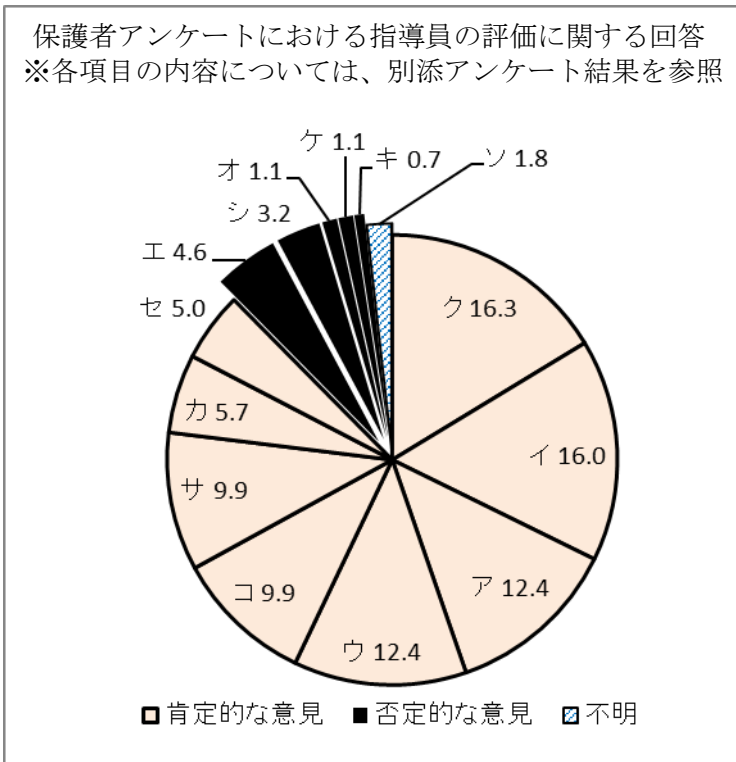
3位…「児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた」12.4%[35人]

「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」12.4%[35人]

上位の4つの回答で全体の約57%を占めており、さらに指導員に対して肯定的な意見をすべて含めると、全体の約88%と高い評価となっている。また、平成30年度のアンケートでも肯定的な意見は約90%と同様に高い評価であったことから、委託1年目から高い評価を維持していることが分かる。

今後も結果として高い評価を維持できるよう努めるとともに、少数意見ではあるものの、「先生による質の差を大きく感じる」という意見があるので、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表 6】



#### 4 委託事業者独自の取り組みについて

##### (1) 「英語のレッスン」の取り組みについて

桃山台育成室では、委託事業者独自の取り組みとして毎週水曜日に「英語のレッスン」が行われている。「英語のレッスン」については、法人が雇用する外国人講師と遊びながら英語を学習する機会を提供しており、講師との会話も日常生活で使う簡単な英語で行っており、児童が楽しんで取り組んでいる姿が見られる。英会話を通じて、児童の理解力・表現力・社交性の向上に寄与することができている。

##### (2) 事業者独自の取り組みに関する保護者からの意見について

「英語のレッスン」の取り組みについては、桃山台育成室開室当初から保護者に好評であり、「英語教育を取り入れてほしい」という意見もあるように、保護者からのニーズに合わせた取り組みとなっている。保護者からの意見として、「英語が分からない子も楽しんで参加できるよう、丁寧に教えてほしい」「英語を習っている子も多く、内容が簡単なため、学年別ではなく内容別にしてほしい」というさらなる取組の推進を希望する声がある。

#### 5 総合的な評価について

##### (1) 放課後子ども育成課による評価について

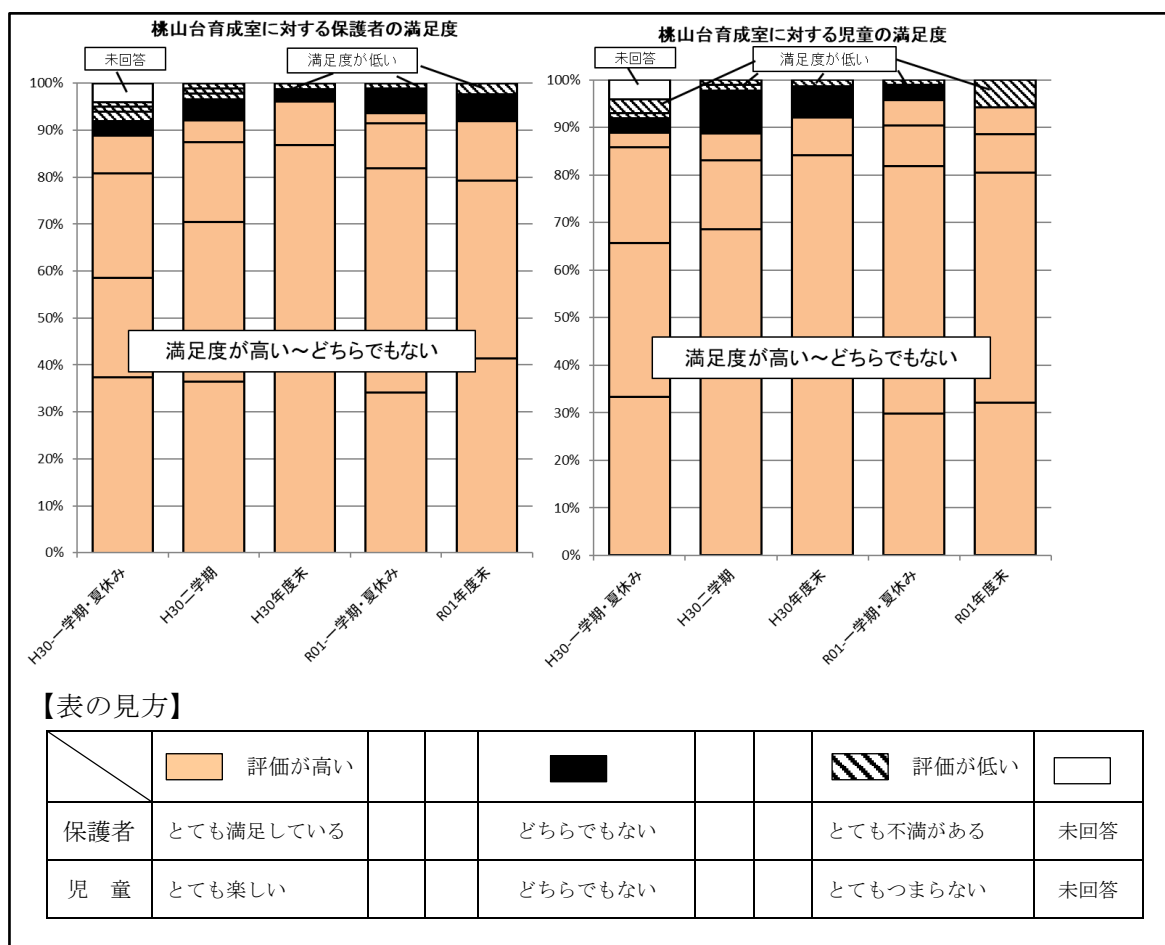
放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる総合的な評価として、桃山台育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく過ごしている。
- 2 指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、目的に特化した部屋づくりをしており、児童自身が選択して生活を組み立てやすい環境となっており、児童の自主性や主体性を育む運営が行われている。
- 5 保護者への情報提供の場として、定期的な懇談会を育成室全体・個人の両方開催しており、保護者参加の大掃除の日を土曜保育に合わせ育成室の様子を見てもらう機会も工夫している。また、情報伝達手段として一斉メールを活用しており、緊急時の連絡体制が構築できている。

(2) 保護者アンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって桃山台育成室はどの程度楽しい場所か?」を聞く設問と、「保護者にとって桃山台育成室はどの程度満足できるものとなっているか?」を聞く設問を設けている。【表 7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、高い評価を受けている」と言える。

【表 7】





## 5 終わりに

これまでの放課後子ども育成課の職員による視察や保護者へのアンケート等による様々な検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成30年度から令和元年度にかけて良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「時代に即した、しっかりした保育指針をもち、子供そして保護者に寄り添う学童運営をしている」「きれいな環境で、遊び道具も豊富で、指導員の方も若く活気があり、いい雰囲気の中で子供をみている」「プリントが適宜発行され、メール連絡も良いタイミングで流してくれて、連絡事項がどの家庭にも行き届いている」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述がある一方で、「子供一人ひとりをもう少ししっかり見てほしい」「自由遊びだけでなく、みんなで一つのことに取り組む経験などもできれば嬉しい」というような、保育のさらなる質の向上を期待する保護者の意見が書かれている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続するうえでの検証を重ね、保護者、学校、放課後子ども育成課としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要などころはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。